

AI半導体株が主導した米国株急落について

今回の下落は一時的調整であり、AI相場は継続すると考えられる

2026年6月8日

お伝えしたいポイント

- ・ 6月5日の米国株式市場では複合的な要因が重なり、利益確定売りを誘発した模様。
- ・ AI新興企業やビッグテックが、AI開発や設備投資にしのぎを削る、いわゆるAI軍拡競争は今後も続き、AI半導体売上の伸びは更に加速すると考えられる。
- ・ 半導体関連株の株価は高い利益成長予想に裏付けされたものであり、バブルとは言い難い。

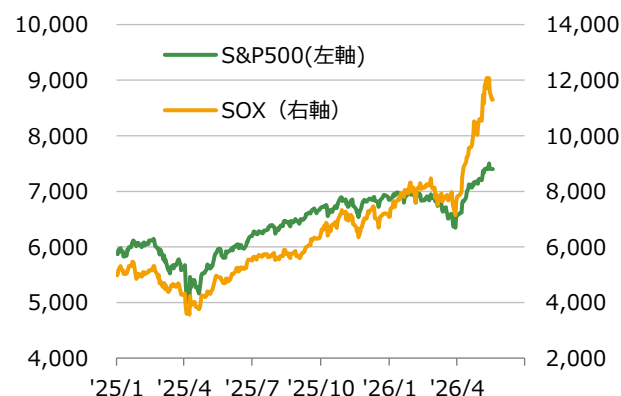
AI半導体株主導で急落した米国株式市場

6月5日の米国株式市場では主要株価指数が急落しました。S&P500は前日比▲2.6%、ナスダックは同▲4.2%、SOXに至っては同▲10.3%と、これまで相場をけん引してきたAI半導体関連株を中心に大きく値を崩しました。

急落をもたらした4つの要因

急落の要因は次の4点が挙げられます。①同日発表の5月雇用統計で非農業部門雇用者数が前月比17.2万人増と市場予想を上回ったことで、年内利上げ観測が拡大。10年国債利回りが4.53%まで上昇し、金利上昇に弱い、半導体株等のグロース株が売られた。②4日、AI新興のアンソロピックが、AI技術の進歩に社会が追いつく時間を確保するために「AI開発の減速や一時停止という選択肢を世界が持つことが望ましい」との考えを表明した。③3日引け後の発表のカスタム半導体大手ブロードコム決算で、26年、27年通期のAI半導体売上見通しが市場の予想に反して据え置かれたことが失望された。④6月12日に予定されているスペースXのIPOに対応するため、AI関連株に投資家からの換金売りが出やすい地合いとなっていた。以上のような材料が重なったことで、これまで急ピッチで上昇していたAI半導体株の利益確定売りを誘発したものと思われます。

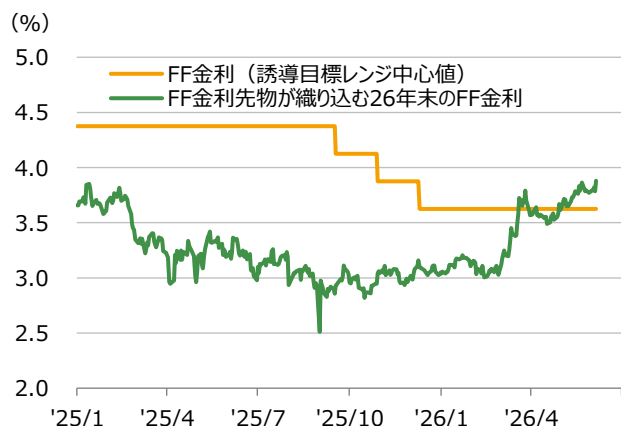
図1 S&P500とSOX



※直近は26年6月5日

(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

図2 FF金利と同先物が織り込む26年末のFF金利



※直近は26年6月5日

(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

今回の金利上昇は「良い金利上昇」の側面あり

確かに前述①～④については目先の不安材料としては懸念すべき要因といえます。しかし、それぞれ以下の理由から、AI相場の先行きは過度に悲観する必要はないと考えられます。

まず①の足元の金利上昇は、原油高を起点としたインフレ期待拡大もさることながら、堅調な雇用環境やAI関連投資拡大を反映した実質金利の上昇が主導しています。AI関連投資の拡大は半導体メモリや部材等の需要増や価格上昇を通じて、AI関連株の業績を押し上げる側面があり、「良い金利上昇」と解釈することもできます。

AI軍拡競争は続く

次に②ですが、アンソロピックがAI開発の減速を望んだとしても、それが現実化するとは限りません。現在、同社の他、オープンAI、グーグル等が激しいAI開発競争を続けており、一社の慎重論だけで競争が止まる可能性は低いと思われます。加えて、企業や消費者はより高度なAIサービスを求めており、こうしたAI需要に対応したビッグテック各社によるデータセンター建設やAI半導体購買などの積極的なAI投資は今後も続くと思定されます。

半導体売上成長は更に加速へ

③については、過去数四半期、ブロードコムの業績は終わってみれば会社計画や市場予想を上回ることが通例です。顧客であるビッグテックの設備投資動向を鑑みれば、同社を含めたAI半導体企業の成長性が失速すると考えるのは早計と思われます。

なお、WSTS（世界半導体市場統計）はAI半導体需要拡大の動きを受け、6月2日に2026年の世界の半導体市場の予測を前年比+90%、従来予測（9,754億米ドル）比+55%の1兆5,112億米ドル、27年を前年比+27%の1兆9,136億米ドルと発表しています。

図3 米10年実質金利と同期期待インフレ率

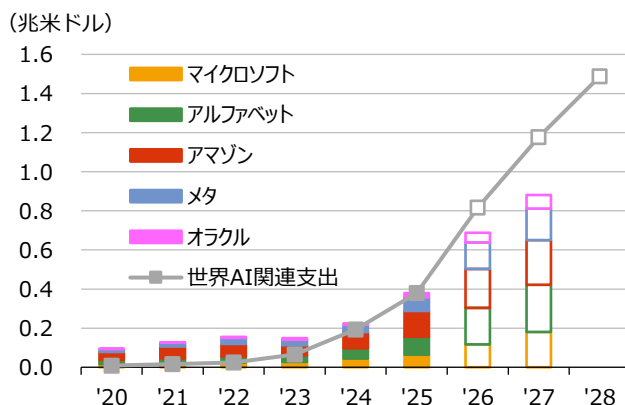


※直近は26年6月5日

※10年期待インフレ率=ブレイクイーブン10年インフレ率

(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

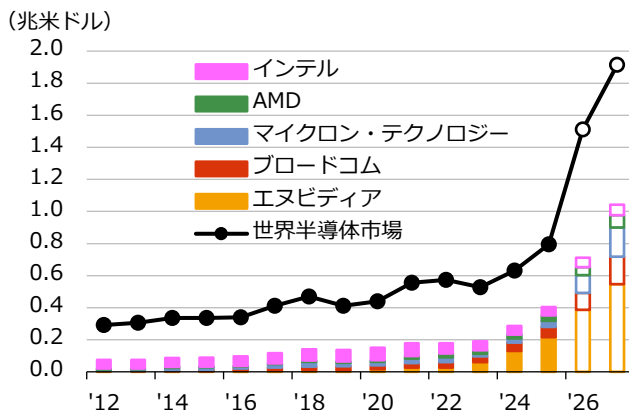
図4 ビッグテック5社の設備投資と世界AI関連支出



※26、27、28年の予想はブルームバーグ（26年6月5日時点）

(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

図5 AI半導体主要5社の売上高と世界半導体市場



※各社売上高の予想はブルームバーグ（26年6月5日時点）

※半導体市場の予想はWSTS（世界半導体市場統計、26年6月時点）

(出所) ブルームバーグ、WSTSより大和アセット作成

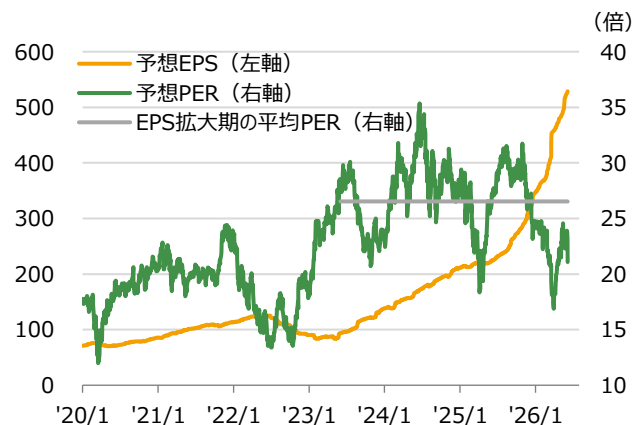
半導体関連株の株価はバブルとは言い難い

最後に④のスペースXのIPOは、確かにAI関連株の短期的な需給悪化をもたらす懸念があります。一方、上場後のスペースXの株価が公開価格を大きく上回って推移した場合、市場心理の改善やAI相場への更なる資金流入を促す可能性があると考えられます。

以上の点から、当社としてはAI半導体市場の中長期的成長力は高いとの見方を変えておりません。S&P500半導体・半導体製造装置の12カ月先予想EPSは26年3月以降急伸が続いています。一方、直近の予想PER（21倍強）は予想EPSが上昇トレンドに転じた2023年半ば以降の平均水準（26倍台半ば）を下回っており、バリュエーション面での割高感はないといえます。

（執筆：調査部 高橋卓也）

図6 S&P500半導体・同製造装置の予想EPSとPER



※直近は26年6月5日。予想はブルームバーグ。12カ月先予想
（出所）ブルームバーグより大和アセット作成

ファンドに関するお電話でのお問い合わせ

☎0120-106212

（受付時間：営業日 9：00～17：00）

※お客様のお取引状況・その他口座内容に関するご照会はお取引先の銀行、証券会社等の金融機関にお問い合わせください。

URL <https://www.daiwa-am.co.jp/>

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。